


# 酒米の田んぼを維持し、日本酒の 売上を伸ばす実装プロジェクト

酒米づくりと日本酒による地域の持続

 三重県南伊勢町 道行竈区

# 地域の概要

## 【南伊勢町】

平成17年に南勢町と南島町が合併

人口・・・ **10,039人**

高齢化率・・・ **54.5%**

主な産業・・・水産業（漁獲量は三重県**No.1**）  
農林業（**温州みかん**、柑橘類等）



伊勢志摩国立公園内の鶴倉園地

## 【道行竈（みちゆくがま）区】

人口・・・ **32人（23世帯）**（令和8年2月末現在）

高齢化率・・・ **65.6%**（令和8年2月末現在）

主な産業・・・ **水稻を中心**とした農業集落

源平合戦のころ、平家の落人が入植したものの、先住者によって既に漁業権が握られていたため、塩竈を造り塩を焼き、わずかな耕地を開いて自活したという「平家落人伝説」が伝わる「南島八力竈」（なんとうはっかかま）の一つ



道行竈の田んぼ



道行竈の入り江

# 地域の現状と課題

- 人口減少、高齢化による**耕作放棄地の増加**
- 担い手不足による**関係人口拡大**の必要性



- **日本酒プロジェクト**始動
- 地域住民の有志による**「チーム道行竈」**の結成
- 道行竈の酒造りが始まる



- 東大FS参加学生の受け入れ（2019年から過去4回受け入れ）
- JUON NETWORK「田畑の楽校」（農業ボランティアの実施）による田んぼの石拾いのボランティア受け入れ・集落散策等
- 大阪eco動物海洋専門学校・地元小学生との塩竈浜クリーンアップ（伊勢度会ロータリークラブ主催）

▶ イベント自体は継続できても、参加者との交流は一回限りになりがち

関係性を大事にしつつ、プロジェクトの継続に繋げる取り組みが必要

# これまでの活動

2018年 日本酒プロジェクト始動



2019年 純米大吟醸「道行竈」完成



2020年 チーム道行竈を法人化



2025年 東大FSの活動



今年も五月祭に  
道行竈が出展予定！

## 【東大生に期待したいこと】

### ■ 「田んぼの維持(守る)」と「酒を売る(続ける)」を実装でつなぐこと

①～③のいずれかのテーマ+共通テーマ（テーマ④）を選択

- ・ テーマ①草刈り・石拾い等、人手が必要な農作業に地域外の人を楽しんで参加できるプランづくり
- ・ テーマ②日本酒を売れる仕組みを現地で作る(販売/体験の小さな実装)
- ・ テーマ③地域外の協力者が参加可能な参加設計(募集・受入・継続参加の仕組み)の整備・道行竈のファン作り



共通テーマ

テーマ④「東大FS×日本酒×限界集落」提案内容の継続のための仕組みづくり

# 具体的なプログラム

活動月	活動内容
6月～	顔合わせ（オンライン）月1～2回程度
8月～9月	まち歩きを通じた、日本酒プロジェクト・道行竈の歴史・竈方文化の学習 地域住民との交流（現地活動 候補①）
9月～12月	課題解決のための企画・実装に関するMTG、準備・実施
12月中旬	新酒の販売準備(現地活動 候補②)
2月上旬	課題解決のための企画・実装(現地活動 候補③)
3月上旬	道行竈にて現地報告会

※現地活動日：①～③のうち、いずれか2つを学生の皆さんと打ち合わせで決定